最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード

ドルストレート通貨ペア（ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル）、クロス円通貨ペア（ユーロ円、豪ドル円、ポンド円）に関して、週足、日足、4 時間足、1 時間足分析を掲載します。

分析は、全て、先週末 4 月 29 日、日足終値時点（NY 時間午後 5 時）での判断です。尚、内容は、私の有料情報サービス「実践トレードコーチング掲示板」（https://www.eagle-fly.com/mur/）からの一部抜粋（毎日お届けしている中で、月曜日の朝一番の配信分のみ）です。毎日の配信をご希望の方は、ぜひ「実践トレードコーチング掲示板」（https://www.eagle-fly.com/mur/）をご覧ください。（動画配信を毎日行っております。無料お試し期間もあります。）

ところで、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断です。そして、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断です。

◆「マーフィーFX」YouTube チャンネルはこちらです。
https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg
様々な相場解説を無料動画で視聴出来ます。

＜＜＜主要 7 通貨相場週足、日足、4 時間足、1 時間足分析＞＞＞

★「週足」はポジショントレードの大局観把握、
「日足」はスイングトレードの大局観把握、
「4 時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、
「1 時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。
尚、特に、1 時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。
また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャート
にて判断することをお勧めします。
そして、トレード戦略の解説は、YouTube で配信している「実践トレード解説」
をご参考にしてください。

■ドル円

＜＜週足分析＞＞
本格上昇トレンド局面。終値が＋2σラインを上回る「走る相場」。

終値と＋1σラインとの位置関係を注視したい場面。
尚、目先、＋2σラインを上回り「走る相場」となっているため、「リバーサルパターン」の発生にも注意をして臨みたいところ。
「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、（1）1 本前の安値をブレイクすること、（2）終値が＋2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。
逆に言うと、「リバーサルパターン」が発生するまでは、買い方向でついていく戦略が有効ということ。その意味で、「トレーレングストップ」が効果的。

＜＜日足分析＞＞
調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存。
すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が＋2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。
現在、安値切り上げパターンとなっており、上昇の流れが継続中。
前日の安値 129.30 円が下値サポート。同水準をブレイクすると続落しやすくなる。

＜＜4 時間足分析＞＞
調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存。
すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が＋2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。
尚、「リバーサルパターン」が発生して以降、反落してきている。

＜＜1 時間足分析＞＞
調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面。
すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値がー2σラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。
尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサインは点灯中。

■ユーロドル

＜＜週足＞＞
本格下落トレンド局面。

終値と－1σラインとの位置関係を注視したい場面。
また、高値切り下げパターンとなっている点にも注目。
すなわち、前週の高値近辺が上値レジスタンス。
尚、終値が－2σラインを下回り、「走る相場」に変化しているため、「リバーサル
パターン」の発生にも注意しておきたい場面。
「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、（1）1 本前の高値をブレイクすること、
（2）終値が－2σラインを上回ること、の両方を満たすこと。
逆に言うと、「リバーサルパターン」が発生するまでは、売り方向でついていく戦略が
有効ということ。その意味で、「トレーレングストップ」が効果的。

＜＜日足分析＞＞
本格下落トレンド局面。
終値と－1σラインとの位置関係を注視したい場面。
尚、目先、－2σラインを下回り「走る相場」となっているため、「リバーサルパターン」
の発生にも注意をして臨みたいところ。
「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、（1）1 本前の高値をブレイクすること、
（2）終値が－2σラインを上回ること、の両方を満たすこと。
逆に言うと、「リバーサルパターン」が発生するまでは、売り方向でついていく戦略が
有効ということ。その意味で、「トレーレングストップ」が効果的。

＜＜4 時間足分析＞＞
調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存中。
すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が
続き、終値が－2σラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。
尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサインが点灯中。

＜＜1 時間足分析＞＞
上昇バイアスを伴ったレンジ局面。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
遅行スパンが陽転しているため、レンジ局面とは言え、買い優位と読む。
尚、直近にて、買いシグナルの逆行パターンの売りサインが点灯中。

■豪ドル/ドル

＜＜週足＞＞
レンジ局面。
レンジ上限の目途である＋2σラインに到達後、反落中。
遅行スパンが、下落傾向のローソク足に沿って下げている点に注目。
（遅行スパンの同期性）
尚、遅行スパンは、安値を付けたローソク足を通過するタイミングに差し掛かっており、
そろそろ底堅くなる可能性を示唆していると読める。

＜＜日足分析＞＞
本格下落トレンド局面。
終値と－1σラインとの位置関係を注視したい場面。
尚、目先、終値が－2σラインを下回り、相場が下落方向に走っている。
リバーサルパターンの発生にも注意しておきたい場面。
「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、（1）1 本前の高値をブレイクすること、
（2）終値が－2σラインを上回ること、の両方を満たすこと。
逆に言うと、「リバーサルパターン」が発生するまでは、売り方向でついていく戦略が
有効ということ。その意味で、「トレーレングストップ」が効果的。
尚、赤色スパンが陰転しており、「1 本勝ちパターン」となるかどうか注視したい場面。

＜＜4 時間足分析＞＞
基調としての下落トレンド局面。
すなわち、遅行スパンが陰転するかぎり、基調としての下落トレンドと判断。
陰転中の遅行スパンがローソク足に接近する場面は戻り売りのタイミングと読む。

＜＜1 時間足分析＞＞
本格下落トレンド局面。
終値と－1σラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値が－1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。
尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯時の

最終ターゲットであるー２σラインに到達済み。

■ポンドドル

＜＜週足＞＞
本格下落トレンド局面。
終値とー１σラインとの位置関係を注視したい場面。
尚、目先、ー2σラインを下回り「走る相場」となっているため、「リバーサルパターン」の発生にも注意をして臨みたいところ。
「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、（1）1 本前の高値をブレイクすること、（2）終値がー2σラインを上回ること、の両方を満たすこと。
逆に言うと、「リバーサルパターン」が発生するまでは、売り方向でついていく戦略が有効ということ。その意味で、「トレーレングストップ」が効果的。
売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサインも点灯中。

＜＜日足分析＞＞
本格下落トレンド局面。
終値とー１σラインとの位置関係を注視したい場面。
尚、目先、「リバーサルパターン」が発生しており、反転上昇しやすくなっている。
「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、（1）1 本前の高値をブレイクすること、（2）終値がー2σラインを上回ること、の両方を満たすこと。

＜＜4 時間足分析＞＞
調整反騰局面。
尚、陰転中の遅行スパンがローソク足に接近、接触する場面は、一旦は戻り売りのタイミングと捉える。

＜＜1 時間足＞＞
調整反落局面入りの可能性が高いと判断。
つまり、終値が＋１σラインを下回りかけており、調整反落局面入りの可能性がある。
また、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯している点も注目。

「1 本勝ちパターン」となり、高値を付けて反落している。

■ユーロ円

＜＜週足＞＞
本格上昇トレンド局面。
終値と＋1σラインとの位置関係を注視したい場面。
尚、「リバーサルパターン」が発生しており、反落しやすくなっている。
「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、（1）1 本前の安値をブレイクすること、
（2）終値が＋2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。
尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

＜＜日足分析＞＞
レンジ局面。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが再点灯中。

＜＜4 時間足分析＞＞
レンジ局面。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯時の最終
ターゲットである＋2σラインにほぼ到達した後に反落。

＜＜1 時間足＞＞
緩やかな下落トレンド局面。
終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

■豪ドル円

＜＜週足＞＞
本格上昇トレンド局面。
終値と＋１σラインとの位置関係を注視したい場面。
尚、目先、「リバーサルパターン」が発生しており、反落しやすくなっていると読む。
「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、（1）1 本前の安値をブレイクすること、
（2）終値が＋２σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

＜＜日足分析＞＞
レンジ局面。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

＜＜4 時間足分析＞＞
調整反落局面。
遅行スパンの「同期性」にも注目したい場面。
尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン再点灯時の
最終ターゲットである＋２σラインに到達した後に反落。

＜＜1 時間足＞＞
本格下落トレンド局面。
終値と－１σラインとの位置関係を注視したい場面。
すなわち、終値が－１σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。
尚、目先、終値が－２σラインを下回って「走る相場」となっているため、「リバーサル
パターン」の発生にも注意しておきたい場面。
「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、（1）1 本前の高値をブレイクすること、
（2）終値が－２σラインを上回ること、の両方を満たすこと。

■ポンド円

＜＜週足＞＞
本格上昇トレンド局面。

終値と＋1σラインとの位置関係を注視したい場面。
尚、目先、「リバーサルパターン」が発生しており、反落しやすくなっている。
「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、（1）1 本前の安値をブレイクすること、
（2）終値が＋2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

＜＜日足分析＞＞
レンジ局面。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
尚、遅行スパンがローソク足に接触したタイミングにて反発した点に注目。

＜＜4 時間足分析＞＞
レンジ局面。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。。

＜＜1 時間足分析＞＞
レンジ局面。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。。
尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯時の最終
ターゲットである－2σラインには到達済み。

★尚、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、
スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。また、
スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期
の判断となる。

以上です。

◆「マーフィーFX」YouTube チャンネル登録のご案内。
https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg

様々なマーフィー流相場分析、解説が動画で無料視聴出来ます。

◆マーフィー流 FX「実践トレードコーチング専用」ライン@のご案内。
以下より登録できます。
https://www.span-model.com/line/

◆「スパンオートトレーダー（SAT）」のご案内。
「スパンオートトレーダー（SAT）」とは、「裁量トレード」と「自動売買（EA）」の良いとこ取りをした、とても便利なトレードツールです。
「スパンオートトレーダー」の詳細、及び、お申込みページはこちらです。
https://www.xfine.info/satrader/

◆「スパンオートシグナル」のご案内。
スパンモデルを有効に使いこなす為のきわめて強力なツールです。
スパンオートシグナルのご紹介、および、ご購入用ページはこちらです。
https://www.xfine.info/sauto/

以上です。